

在宅用小型軽量PCAポンプにおける課題抽出と運用指針に関する研究

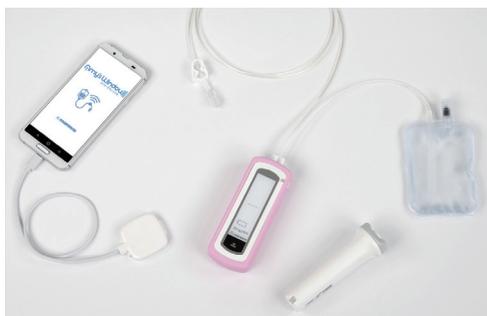
西村 信城

Nobushiro Nishimura 在宅医療支援センター／特任助教

- **キーワード** 在宅用小型軽量PCAポンプ、在宅、看取り、緩和ケア、疼痛
- **対象疾患** 癌性疼痛、慢性疼痛、終末期
- **研究フェーズ** 応用
- **モダリティ** 在宅用小型軽量PCAポンプ

シーズ概要

在宅医療下において患者自己調節鎮痛法 (Patient Controlled Analgesia) で使われる疼痛緩和用ポンプ (以下PCAポンプ) として様々な製品が供されているが、小型軽量化された製品が普及すれば患者のQOL改善や医療従事者にとっても取り扱いやすさの向上に貢献すると考えられる。しかし、在宅現場でのPCAポンプの普及は十分とはいえず、在宅診療に関わる医療従事者へのアンケート調査を通じて、これらの問題点や注意点をより具体的に把握し、実際の臨床現場のニーズや懸念事項を明らかにしようと考えている。この研究により、PCAポンプの在宅医療への効果的な導入と普及のための方法を探索する。



研究成果の応用可能性

在宅用小型軽量PCAポンプにおける課題抽出を行い、その問題点を解決することで在宅医療における疼痛緩和の質を向上させ、患者のQOLを改善する可能性がある。小型軽量PCAポンプの普及により、患者の活動範囲が広がり、より快適な在宅療養環境を提供できる可能性がある。

Appeal Point

アピールポイント

在宅診療の中で使用できる医療機器も日々進歩しており、病態にあわせて適切な医療機器を使用することで患者のQOL改善につながる可能性がある。

関連文献／特許

1. 山田正美ら (2019) 日本緩和医療薬学雑誌 (Jpn. J. Pharm Palliat. care Sci) 12:39-45